

第 2 回厚木市中学校部活動の在り方検討委員会会議録

会議概要

会議主管課	教育部 教育指導課
開催日時	令和 7 年 11 月 6 日（木曜日）午後 3 時から 5 時
開催場所	厚木市役所第二庁舎 4 階 教育委員会会議室
出席者	厚木市中学校部活動の在り方検討委員 8 人 厚木市教育委員会教育長、教育部 教育指導担当部長、教育指導課長、事務局（教育指導係員、教育振興係員）
説明者	教育指導課指導主事 1 人

傍聴者 2 人

委員 9 人中 8 人出席（過半数）により会議は成立

会議の経緯は次のとおりです。

- 1 開会 事務局
- 2 教育長あいさつ
- 3 諮問
- 4 議事

(1) 他市の推進計画について 資料 1 ～ 2 に基づき事務局から説明

《質疑応答》

なし

(2) 児童・保護者アンケート結果について 資料 3 ～ 5 に基づき事務局から説明

《質疑応答》

委 員：児童アンケートの回答率は低いと伺ったが、保護者アンケートの回答率はどうか。

事務局：児童保護者、生徒保護者ともに約 20%程度である。

委 員：回答率を確保する工夫を進めてもらいたい。

委 員：回答期限を延長されたと伺ったので、次回の会議までには、もう少しデータが集まるかと思う。

委 員：現在の部活動では、部費として年度初めに一括で徴収しているが、地域展開した場合、月謝の形で徴収することになると思う。部活動だと、年間で 10,000 円に満たない額かとおもうが、毎月 5,000 円となると、参加者にとっては負担に感じるのではないか。

委 員：現状では、部費はどの程度徴収しているのか。

委 員：私が所属する部活動では、年間 7,000 円程度である。その他、市からの交付金をもらっている。

事務局：種目によって多少の差はあるが、市全体では平均するとおおむね年間 5,000 円程度である。

委 員：地域展開した場合、月謝はどの程度の金額を想定しているのか。

事務局：具体的な金額は未定である。保護者負担の額については、後ほど国が示している資

料で説明する。

委員長：保護者アンケートの結果から、活動場所への送迎を負担に感じている保護者が多くいることがわかった。厚木市には、スポーツ活動を実施できる施設の利便性が十分でないという状況の中で、地域展開するに当たっては「移動」が大きな課題になると思う。

委員：保護者アンケートの結果から、部活動に期待することについて、「友人関係を広げること」「学校生活に豊かさをもたらすこと」が多く、これは大人自身が経験した部活動に対する思いが反映されている。一方、児童アンケートの結果から、部活動、習い事ともに「体力をつけたり、技術を高めること」「楽しみながら活動すること」が多い。おそらく、今までの学校で活動する形でなくとも子どもたちは受け入れられるのではないか。

委員：今回のアンケートは、まだ周知がされていない中での実施となったが、今後、市の方針が決まったときは、違う結果が得られると思う。休日の地域展開となった場合、スポーツ・文化ともに家庭の経済的な負担は増えると考えられるため、その点も見越した制度設計が必要である。地域展開の主体をどこにもっていくかによっても異なるが、地域にあるクラブチームが主体となっていくことは難しいと思われるため、別で地域展開を担う主体を作っていく必要がある。

事務局：費用については、今後国において金額の目安を示すこととなっている。また、経済格差が体験格差にならないようにと示されており、その点を踏まえて制度設計をする必要があると考えている。

委員：児童保護者アンケートと生徒保護者アンケートを見比べたときに、経済的な負担については、部活動で経済的な負担を感じている割合は少ない。一方、月謝の額に若干差はあるが、どちらの保護者も習い事で経済的な負担を感じている割合が多い。月謝の金額の多少の問題ではなく、月謝があること自体が負担につながっているのかもしれないと考え、額については、過度に捉える必要はないかもしれない。また、活動場所への移動について、中学生になればバスや自転車で移動することができると思うが、ここに不安を感じている保護者が多く、対応が難しい問題である。

委員：現在、厚木市では自転車の利用は禁止されているのか。

事務局：禁止しているが、地域クラブ活動となった場合は、自転車での移動も想定している。

委員：他市では、駅から距離のある立地の学校は、部活動の際に、自転車での移動を認めている例もある。本市の場合は、駅は本厚木駅が中心、バス路線は本厚木駅を起点に放射状に整備されているため、立地によってはバスでの移動が難しい。そうすると、保護者が送迎をせざるを得ない状況が生まれてしまう。習い事をしていない人の意見も気になるところである。

委員：習い事への送迎や地域展開の際の活動場所への移動、月謝などの経済的な負担を心配している保護者が多くいることが分かった。現在、厚木市が考えているブロック制は、限られたブロック内での移動であるため、送迎に関する負担は少し軽減されると思う。また、会費については、経済的に困窮する家庭においても参加できるような、部活動レベルの費用を想定していれば、クリアーできると思われる。ネックになるのが、指導者の確保である。教員の兼職兼業のシステムを築きながら、移行当初は教員をお願いをして地域指導者として関わっていただきながら、徐々に地域の人材に移行できると良い。また、お金の部分でいうと、保険の問題もある。現在は、日本スポーツ振興センターの保険が適用になるが、地域クラブ活動になった場合には、どうな

るかも知れないところである。さらに、地域指導者の報酬の額をどの程度にするのか、その点も考えていく必要がある。

委員：私の小学校の息子は、自宅から活動場所までは自転車で移動している。はじめに、親が同行して道を覚えさせ安全について指導をした上で、子どもを一人で通わせている。親が子どもを少しずつ自立させ、一人で行き帰りさせることで、保護者の負担も減るのではないかなと思う。部活動は、子どもがスポーツや文化活動に触れるきっかけになるものだと思う。子どもが興味をもったものにすぐに挑戦できることが大切で、そのきっかけは多くある方が望ましい。また、月謝があまりかからず、手軽に体験でき、競い合いや発表の機会もある。地域移行した場合でも、子どもが気軽に参加できる仕組みが重要であると考えます。

委員長：ここで暫時休憩とします。再開は、4時8分としますので、よろしくお願いします。

(3) 地域クラブ活動の在り方について 資料6～7に基づき事務局から説明

ア 地域展開を進める上で大切にする視点

《質疑応答・意見交換》

委員：廉価な会費とあるが、具体的にどのくらいの額を想定しているのか。

事務局：額については、国が示している額を参考にしながらこれから検討していく。

委員：サポートクラブについて、現段階で地域にあるスポーツクラブ等が手を挙げる見通しはあるか。

事務局：現段階では具体的な見込みがあるわけではないが、今後、部活動クラブの運営を進めていく中で、その活動の様子を見ながら、「それであれば自分たちの理念と合うのではないかな」と考え、サポートクラブに登録しようとする動きが出てくるのではないかと考えている。

委員：募集をかければ、ある程度は集まってくるという印象をもっている。

委員：部活動クラブとサポートクラブは、別のものとして捉えて良いか。

事務局：別のものである。

委員：選択肢が増え、チャレンジする機会が広がるということについて、選択できる競技が増えた場合、その中から一つだけを選ぶ形になるのか、それとも複数のクラブに所属することも可能なのか。アメリカでは、シーズンごとに競技を選ぶことができたり、体験を通して「面白い」「もっと続けたい」と感じた場合、より専門的なクラブに参加したりする仕組みもある。

事務局：スライドの55に示されている「新たな価値」の一つに、「生徒のニーズに応じた多種多様な体験」とある。その視点も踏まえて、今後の検討を進めていく。

委員：いろいろな体験の機会を設けるという点においても、とても良い視点だと思う。

委員：サポートクラブがあることで、活動の保障ができると思う。子どもにとっては、どの種目を選ぶかだけでなく、どのクラブを選ぶかも考えていくことになる。現状の部活動では、見学や仮入部を経て決定するが、地域クラブの場合も同様に、選ぶ期間や体験の機会を十分に設けないと、うまく選べない子が出てくるのではないかなと思う。小学校段階からクラブの活動を見に行けるような仕組みがあると良いと思う。

委員：先ほどの「複数を選択できる」という考えには、とても共感した。今は移行期間で、すぐに実現できなくても、そこを目標に進めていくことで、若い人たちの感性や自由度がいかされ、新しい価値観を取り入れることができれば、長期的に活動が続いていくのではないかな。何か一つに絞るのではなく、選択肢の中から自由に選び、辞めるこ

ともありながら将来の可能性につなげられる仕組みができると良い。

委員：選択肢が増えるという点からも、ブロック制は良い仕組みだと思います。

委員：ブロック制にした場合、種目は統一するのか。それとも、地域性を考慮し、ブロックごとに個別性をもたせるのか。

事務局：現時点では、現行の部活動の種目を維持したまま、地域クラブとして活動していくことを想定している。

委員：ブロック制にしたとしても、選択できる種目に偏りは生じないのか。それとも、均等になるのか。

事務局：ある程度均等になると考えている。

委員：4ブロックにわけてチーム編成をした場合、試合やコンクールはどの団体で出場するのか。

事務局：ブロックで編成したチームで出場することになる。

委員：吹奏楽は積み重ねが必要な活動なので、サポートクラブで練習するのは良いと思うが、普段は一緒に活動しないメンバーと休日だけ集まって音楽を作るのは難しいのではないか。

事務局：一定数以上の人数を満たしていて、単独の希望があれば単独チームを認めることを考えている。ただし、自校に部活動がなく、ブロック内で希望する生徒については、受け入れてもらうことを想定している。

イ ブロック制地域クラブ活動について

《質疑応答・意見交換》

委員：ブロックの分け方については事務局案で良いと思う。ブロック内に希望する種目がない場合に、別のブロックへの参加は可能か。

事務局：可能である。

委員：現在、厚木市には中学校選択制（隣接区域選択制）というものがあるが、地域クラブ活動について、ブロックは異なるが隣接している区域への参加をどのように考えるのか。また、演劇はそれぞれの地区に1つずつあるが、人数が少なくなったときに、ブロックを越えて一緒に活動することを認める余地を残しておくことが望ましいと考える。

委員：原案でおおむね良いと思う。地域クラブ活動では、小学生や大学生も参加できると、中学生だけでは体験できないことを経験することができる。地域全体が参加できる体制を構築することが重要であり、それによって市全体が活性化する機会になると考える。

委員：指導者の中に、「近隣の大学生」とあるが、具体的に話が進んでいるのか。

事務局：今後、検討していくところである。

委員：スポーツの指導者の育成に関する授業を展開している大学もある。今後は、大学の教育の一環として、このような活動に関わりたいという動きも出てくるかもしれない。近隣の大学生にとっても、学びを深める良い機会になると思うので、ぜひ進めてほしい。

委員：指導者を育成する良い機会になると思う。こうした変化がなければ、なかなか新しい一歩を踏み出すことはできない。大変な面もあると思うが、技術的な指導からコーチング、人との関わりまで、さまざまなレベルでの学びがある。指導者の質が問われる中で、大学生や地域の方々が関わることは大きなチャンスだと思う。

委員：拠点校について、ブロック内のすべての活動が拠点校で行われるのか、それとも種目によって異なるのか、どちらを想定しているか。

事務局：種目ごとに設定することを想定している。

委員：可能であれば、中間地点にある小学校などを借用して練習場所とすれば、道具の問題はあるものの、移動距離の負担をある程度軽減できると考える。また、当面は平日と休日で指導者が異なる可能性もあるため、指導方針の共有や橋渡しとなる連携の取り方についても整理が必要になる。さらに、休日の練習が台風などで中止となる場合、連絡体制をどこが責任をもって行うのか。教員が担うのか、クラブ側が担うのか。責任の所在と運用方法を明確にしておかないと、現場で混乱が生じるのではないかと危惧している。

委員：平日と休日で指導者が変わることに、メリットもあればデメリットもある。連絡体制については、実際に運用しながら、どのように進めるかを決めていく必要があると思う。また、種目によっては合同での実施が難しいことが想定されるため、その点は課題の一つとして認識しておく必要がある。

委員：全体としては、この方向性で良いと思う。ただし、指導者が安心して指導できる体制づくりについても検討してほしい。指導の際には、大きなけがやトラブルの可能性もあるため、指導者が安心して活動できるような対策を講じることが必要である。

委員：極端な例であるが、生徒が多く集まっても指導者が不足したり、指導者が大学生のみだったりなど、さまざまな状況が考えられる。こうした想定をあらかじめしておくことが大切だと思う。

委員：指導者の募集については、あらかじめ生徒に参加希望を確認するなど、募集方法の検討が必要である。

委員：指導者はボランティアか。

事務局：指導者に対しては、報酬を支払う。

委員：単独で活動できる場所は、単独で残した方がよいと思う。また、種目によって異なるが、陸上部は単独でも合同でもどちらでも活動できると思うが、吹奏楽は単独が合っていると思う。種目ごとに特性が異なるため、それぞれ個別に対応を考えていく必要がある。